

## 編輯室の内外

▽農民から呼びかけられて始められた所謂時局匡救對策、遂に大土木事業を計畫せしむるに至つて、第三次の臨時議會は開かれてゐる。違つた主義政策を持つ政民兩黨が之に對して如何なる態度に出るか天下の見ものだが、豫算だけを協賛することは明かだ、（？）なれば全國一齊に土工が始まる、之に成功しても失敗しても、我が土木史に特筆すべき大事業だ、而かも事業の大部は道路工事であるから我が路政には特に關係が深い、當局の奮闘を希望して已まない。

▽此事業が政府の豫期するやうに、農民の手に依つて農村道路が改良されたら、道路愛護運動などを起して世間を騒がす必要がないやうに、公共物愛護の精神を涵養する

やうに爲るのは田中君の所論の通りだが、

其の執行の方法を誤つたときは、町村會議員や公吏の懐を肥すだけのことに終る。而して今後此事業を繼續して執行せよと言ふ要求は、先ず是等甘味を占めた連中から發せらるゝであらう。そうして夫れが天下の聲と爲り民意となつて表はれる、其處に立憲政治の惱がある、之を矯正する爲に政黨排斥の聲の起るのも無理はない。

▽時局對策としての土木事業の打合せに出席された土木主任官や内務部長を招待して路政に關する意見を拜聴した。主席の何れもが農村を救済するにしても振興せしむるにしても、農村生活に自動車を使用するやうに爲らねば農村の振興は不可能だ、で道路を改良することが何よりの急務だと、口を揃えて道路の改良を説く、矢張り吾等同人の意見と全然符合し同志の多いのに聊か

暑を忘れしめた。

▽本誌の發行が少し遅延した。夫れは農村振興土木事業に關することの近況を報導せむとした結果に外ならない、不悪、併しながら地方の人々が此事業に依つて知るべき事柄の總ては擧げて本誌に收めてゐる。

本誌定價 五十錢  
一ヶ年分 金 六圓

東京市麹町區大手町一丁目内務省内  
發行所 社團 道路 改良 會  
東京府豊多摩郡代々幡町幡ヶ谷三五六  
發行兼 編輯者 小 島 效

東京市小石川區諏訪町五六  
印刷所 常磐印刷所  
印刷者 堀江 關 武